

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、会社としての理念に加え「安全で楽しく家庭的」という当グループホームだけの独自スローガンを掲げています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の全体会議で毎回理念を読み合わせています。独自スローガンを実現するために、ミーティングで話し合っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をグループホームの玄関に明示し、パンフレット等も目のつくところに置いてあります。また地域交流や運営会などを通して、理念の浸透につとめています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中に自治会の方が声をかけて下さったり、庭の花を届けて立ち寄って下さったりと、良いお付き合いができています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや近隣の小学校から招待状が届くなど、地域の一員として認識してもらっています。また事業所も、学校生徒の社会見学や課外授業を受け入れ協力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの受け入れや見学は積極的に受け入れてます。また、認知症のケアに関する相談にも対応しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホーム会議等で外部評価の意義を話し共通理解に努めています。また、評価結果についても職員全員で確認し、改善を図っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状の報告や意見交換、質疑応答などを行いサービスに反映できるようにしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各市町村への挨拶や、各事業所等の研修会にも積極的に参加しています。また、市町村の講演会依頼にもグループホームとして参加しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての理解を持っていますが、現在活用に該当する入居者がいないため全職員に周知するまでに至っていません。		今後、会議やミーティングなどで取り上げ、学ぶ機会を持ちたいと考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法や身体拘束についてグループホーム会議や全体会議などで取り上げ、学んでいます。マニュアルも作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には一定期間、管理者がユニットリーダーまたは、経験豊富な職員がつき指導育成しています。また、管理者の育成も計画をたて、随時研修を受けさせています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流があり、訪問したり情報交換をしています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営本部には、職員のメンタルサポートの窓口が設置されており、いつでも相談できるようになっています。また、管理者やセンター長も職員が相談しやすいような環境作りをしており、年2回の面談をしています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	センター長、管理者は職員個々の状況を把握するよう努めており、それぞれに合ったアドバイスや、次の目標につながる声かけをしています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの段階から、なるべく入居本人の状況を知るよう心がけています。入居までに必ず1度はホームに来ていただき、ご本人とよくお話をし聞き取るようにしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みは本人が同席せずご家族が来ることが多いので、本人同様にご家族の希望や困っていることをよく聞きとるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方なども伝えるようにしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染んでいただけるように、グループホームの体験利用や、併設のデイサービスの利用も受け付けています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中での、職員と入居者の枠にとられない心の交流を大切にしています。調理の仕方や昔の話などを通して、学んだり支え合ったりしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者について、何か問題がある時や相談したい事がある時は、プラン作成時に限らずご家族に連絡相談し、本人を共に支えるような関係作りをするようにしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年2回家族会を設け、交流を促しています。また、行事のお知らせをすることでホームに足を運んでいただく機会を増やしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から特に禁止が無い場合、訪問者は歓迎しています。本人が訪問者を思い出せない時には、同席し支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の会話にはさりげなく交わりを持ち、他の入居者が孤立しないように配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院や医療系の介護施設に転居された入居者や家族とも、関わりを持っています。お見舞いや家族からの報告があるなど、良いお付き合いを継続しています。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活の中での関わり合いから、入居者それぞれの意向希望の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、家族にも相談し検討しています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の本人家族からの聞き取りや、入居後の会話などからも把握に努めています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行動なども申し送り、些細な変化もとらえるように努めています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族との関わりの中で思いや意見を聞き、その人らしく暮らす支援として何が必要かを、アセスメントや職員の意見交換、モニタリング、担当者会議を通し、介護計画に反映できるようにしています。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画が適切に実施されているか評価しています。また、新たな課題が発生した時には、期間外でも検討見直しを行っています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、いつもと違う言動などを個別ファイルに記録しています。いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの連携で、一緒に行事を行ったりデイサービス利用者との囲碁を楽しんだりなど柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の小学校からの児童の訪問や行事招待、自治会主催の地域のお祭りへの参加など、協力しながら支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や状況に応じて、訪問理美容や訪問歯科サービスを利用しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に訪問し、情報交換を行っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時の同意の上、本人はもちろん家族とも連携をとり、協力病院とも良い関係を維持しています。適切な医療を受けられるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状や対応方法、家族からの相談に関してもいつでも相談できる医師を確保しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	センター内の看護師との連携が充分取れており、日常での健康管理や医療的な相談をしながら支援しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞いに行った際、医師や看護師などと情報交換や相談をして連携をはかっています。早期退院を目指した医師からのムンテラは、なるべく家族同席していただいています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族や協力病院との面談や話し合いを充分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者については、家族との頻繁な連絡と相談の上、協力病院ドクター、事業所ナース等との連携で一番良いと思われる支援をしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際は、事業所の情報提供用紙を用い十分な情報交換と引継ぎをするようにしています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等は個人情報保護法にのっとり取り扱っています。日々の生活の中で、本人の尊厳を損なう情報は会話にしないなどの配慮をしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>家事やしたい事など、自分の好きな事を行なえるような働きかけをしています。また、安全を確保した上で、行動の自由を制限しない言葉かけをするなど、のびのびと過ごし自己決定できるように支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設側の都合に無理やり合わせるのではなく、一人ひとりの生活リズムを大切にできるだけその人の思いや状態を配慮する支援を心がけています。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時の着替えなど、本人の意向や相談にのりながら決めています。毎月1回訪問理美容を利用して、一人ひとりの希望のおしゃれを楽しんでいただいています。本人の希望があれば、近隣の美容室にも付き添っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの力に合わせ、食事にかかわっていただいています。食べたいものの希望も出来るだけ取り入れるようにしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>身体状況に合わせ、嗜好を楽しめるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、声かけや交換の際にも自尊心を傷つけないよう排泄の支援をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望を伺い安心して入浴ができるような声かけや対応の工夫を心がけています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は定めていないので、状況に応じその人の生活習慣を尊重したペースで休んでいただいています。散歩や体操などで一人ひとりの生活のリズムを作り、安眠策をとっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なものを理解し、生活の中で出来ることを見い出し実現できるよう支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金はお預かりしていますが、買い物の際など本人に支払ってもらうなど、状況に応じて支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとのドライブやイベント参加など、外出の機会を毎月計画しています。外出の希望があれば必ず職員が同行するようにしています。直ぐに出来ない時には説明し納得していただくようにしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の生活の中で本人からの希望があった場合は、家族に伝えるようにしています。ホームとして可能な場合は、行事として計画し実現しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどは毎年書いていただいています。電話は家族の意向を伺って行なっています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には、家庭的な雰囲気を感じていただけ、また気軽に訪問できるよう対応しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、会議やミーティングなどで正しい理解ができるよう学び、ケアに取り組んでいます。「座っててください」などの入居者の動きを止める声かけをしないようにしています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等は施錠しておらずオープンにしていますが、急な下りのある危険な場所には施錠しています。それについて家族には説明し納得いただいています。その他の場所は全て自由に行き来していただいています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は声を掛け合いながら、常に入居者が見える位置にいるようにしています。また、入居者の様子は常に把握しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬、洗剤などは入居者の目の届かない場所に保管しています。使用する時には、必ず職員が見守っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための緊急マニュアルがあり、職員各自が対応できるようにしています。事故報告書やヒヤリハット報告などで、対応策や改善策を検討しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故の際は、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。また、救急救命講習も職員順番に受講しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、年2回避難訓練が行われており、全入居者参加しています。また、消火訓練も行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人ひとりについて起こり得るリスクは、その都度家族に説明し、改善に向けての対応策も提案し、抑圧感のない生活への解決に向けて支援しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、食事量や水分摂取量、排泄などからトータル的に体調管理しています。異変を発見した場合は、速やかに医療などへの対応をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に入居者の薬の意味を把握し、増減や変更についても把握しています。また、内服によって変化や異状があった場合は、家族と医師や看護師などの医療機関に相談しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄のリズムを把握しています。コントロールが必要な場合は医師の指示のもと行っています。また、1日1度必ず体操をしていただき自然排泄を促しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい、歯磨きなどを行っています。本人に任せただけでなく、声かけや援助を行い清潔を保持しています。また、必要に応じて歯科受診も行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表により一人ひとりの状態を把握し支援しています。栄養士によるバランスの取れた献立を提供しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を行い、手洗いうがいを随時行っております。感染症のマニュアルがあり、感染症の勉強会も随時行なっています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日の終わりにはキッチンの周りの清掃や、調理器具、布巾などはハイターにつけて消毒するなど、衛生管理しています。冷蔵庫内の食材には日付を記入し安全な食材を使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には草花を植えたり、あたたかみのあるプレートをとり付けて、家庭的な雰囲気作りの工夫をしています。手作りの装飾や入居者の作品、写真などを置き、家族や入居者にいつでも見ていただけるようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明を弱めたり、カーテンで調節しています。テレビ等は音量をほぼ一定に保っています。職員は声のトーンに注意し、入居者となるべく近づきゆっくりとお話するようにしています。毎月のカレンダーや装飾など、入居者と一緒を考え製作しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各居室を気軽に行き来しています。また、エレベーター前にソファを置き、洗面台の前にもソファを置くことで、入居者が思い思いの場所で過ごせるような工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、使い慣れたものを用意して頂いています。また、家具等も入居者が使っていたものをお持ちいただいています。新規に購入するものは、可能な限り本人と一緒に行き選んでもらうようにしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	集中管理ですが、適宜訪室して室温調節を行っています。また、居室内の空気の入れ替えも行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手すりがついており、入居者がいつでも使えるようになっています。キッチンやカウンターも低めに設計されており、入居者が調理するのに使いやすいようになっているなど、入居者の安全と自立に配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症による混乱や失敗につながらないように、汚れや設備不備は速やかに改善しています。また、居室は同じ作りであるため、個々の作品などを表札に取り付けて分かりやすくしたり、トイレや浴室には目線の位置に目印となるものをつけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りの水撒きや草取り等は職員と一緒にいき、洗濯物も入居者と一緒に行っています。また、玄関先にベンチを置き、入居者が日光浴や涼んだりできるように工夫しています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)